巻頭言

持続可能な日本風工学会に For Sustainable Activities of JAWE

奥田泰雄*
Yasuo OKUDA

2019年5月22日の社員総会後の理事会において、会長に選出されました奥田泰雄です。任期は1年間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。会長の任に就くにあたり、僭越ですが本会の現状について一言申し上げたいと思います。

1976年の日本風工学研究会の発足から40年以上経過しました。本会の発足時は、高度経済成長期が終わってオイルショックを経験した後でしたが、数多くの超高層建築物や長大橋が建設されはじめ、これらの大規模構造物を設計するために、わが国の風工学研究が発展する緒にあったと思います。その後、日本社会はバブル崩壊後に平成不況になり、また本会においては日本学会事務センター不正経理問題などもあり一時的に危機的な状況もありましたが、先輩諸兄のご尽力により、本会は半世紀近くの歴史を刻むまでとなりました。

現在の財務状況については、5月の社員総会で報告しています。近年は毎年100万円前後の赤字を計上し、準備金を取り崩していました。しかし、昨年度は広告収入の増加や、印刷会社の変更による印刷費の見直しなどの支出の削減により、赤字が20万円程度に縮小し、財務状況は改善されつつあります。

図1は本会の現在の会員(名誉会員・正会員・学生会員)の年齢構成(20代は24~29歳)です。団塊ジュニア世代を含む40代が約120名と突出して多く、50代、60代、70代と減少し、30代以下の若年層も少なくなっています。とくに団塊世代に相当する70代が大きく減少して

図1 会員(名誉会員・正会員・学生会員)の年齢構成
(2018年7月現在)

います。

学会誌には、1997年4月号(No.71)から毎号、名誉会員、正会員、学生会員、賛助会員、海外会員の会員数が掲載されています。図2は学会誌の毎年4月号に掲載された会員数(名誉会員、正会員、学生会員、賛助会員、海外会員)の推移を纏めたものです。名誉会員のみ増加していますが、正会員、学生会員、賛助会員、海外会員は軒並み減少しています。正会員は2007年のピーク(518名)に2019年は364名まで約30%減少しています。学生会員も2006年のピーク(70名)に2019年は14名まで減少しています。賛助会員も20年前は64社もありましたが2019年は40社まで減少しています。

* 国立研究開発法人建築研究所 構造研究グループ長
Director, Building Research Institute

図2 会員数（名誉会員、正会員、学生会員、賛助会員、海外会員）の推移

今年の社員総会で本会の組織及び運営規程が一部改定され、一定年齢以上で一定期間以上の在籍期間を有する正会員には、申告により正会員のままで会費を減額する制度や会費を一括納入する制度の創設が認められました。これまでの組織及び運営規程では、退職後も正会員を継続するためには現役時と同額の会費の納入が求められてきたため、止むを得ず退職を契機に本会を退会してしまう会員が数多く居られました。この制度の創設により退職後の学会費の負担を軽減することになり、正会員の減少に歯止めがかかることを期待しています。

次に学生会員ですが、本会にとって学生会員は未来の正会員であり、学生会員が減少することは正会員の減少

に直結するものです。最近の学生会員の減少は、学生会員を産み出すべき風工学を専門とする大学の研究室が減っていることが原因と推定されます。学生会員の会費の見直しも含め、学生会員が増加する方策の検討が急務と考えますが、長期的には大学の研究者を増やすことが重要と思います。

最後に賛助会員ですが、現在は会員の会費収入の約40%を占める賛助会員の減少も学会としては大きな問題であると考えています。これまで2000年以降の不況や東日本大震災などの影響により、賛助会員の退会が続きましたが、2015年以降はほぼ横這いの状況になっています。一旦退会した賛助会員の再入会は難しいようで、新たな分野の会社等に入会を働きかけるなど、新規賛助会員の開拓が必要と考えています。

表1 日本風工学会の主な活動

・4回の学会誌・論文集の発行
・7つの研究会（風災害研究会、風環境に関する情報発信研究会、太陽光発電システム風荷重・耐力評価実証研究会、実大ストームシミュレータの設計と要素技術に関する研究会、瞬間風速の計測・予測技術研究会、建築物内外の圧力分布に関する研究会、耐風構造教材制作研究会）の活動
・年次研究発表会や風工学シンポジウムの開催
・CJKの開催
・若手スクールの開催
・風災害フォーラムの開催
・防災学術連携体への参画など

以上のように、現在の学会の会員の状況と財務の状況についてネガティブな側面を申し上げましたが、現在の学会の活動状況は、このような状況にも拘わらず、表1のように非常に活発であり、会員には学会誌やホームページを通してその活動を情報共有することができます。

理事会としては、今後も、持続可能な学会を目指して、学会組織の充実、経費削減、収入増へ向けた取り組みについて検討・実施して参りたいと思いますので、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。